

新たな需要の創出に向けたミニサイズの山科ナス栽培法を開発

新たな需要の創出に向けて、傷つきやすく栽培が難しい山科ナスを小ナスで栽培し、収益性を確保する栽培体系を明らかにしました。

背景

- 山科ナスは、京の伝統野菜のひとつであり、非常に美味しいナスであるが、従来規格サイズでの栽培では果皮に傷がつきやすいなど生産が難しく、現在の生産量は激減している。
- 調理に手間のかからない野菜品目へのニーズの高まりなど、消費の多様化に対応できる様々な商品形態が求められている。

課題等

- 新たな需要を創出するためには、扱いやすい大きさなど、多様な京野菜の品目が必要。
- 新たな品目の普及を図る上で栽培法や、収益性の評価が求められている。

●山科ナスの小ナス収穫サイズと栽培法

▶小ナスの収穫サイズ

この大きさに収穫
(市場関係者に聞取り)



30g

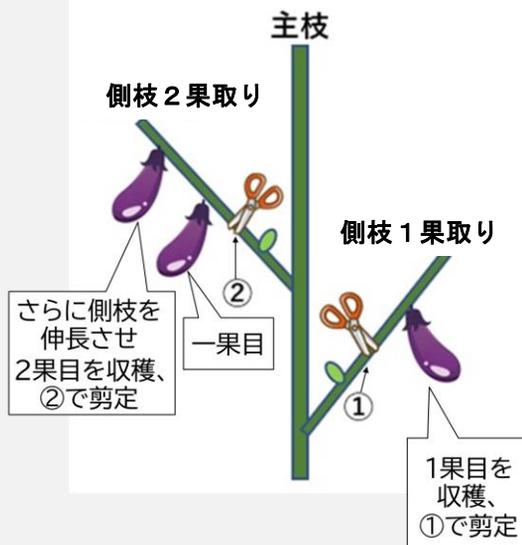
40g

従来規格サイズ
(100~200g)



120g

▶収穫量の減少をカバーするための栽培法 ⇒側枝1果取り→2果取りで収量10%UP



●山科ナスの小ナス栽培は、小面積でも収益性確保

	栽培面積 (a)	単価 (円/kg)	可販重量 (kg)	収入 (千円)	所得(所得率40%) (千円)
小ナス	6	800	4,098	3,279	1,311
従来サイズ	10	319	9,159	2,922	1,169

単価は京都市中央卸売市場の統計値(平成30年~令和3年の7~9月平均)

従来の6割の栽培面積でも同等以上の所得が得られる。

研究成果

- 山科ナスの小ナスの収穫サイズを明らかにし、収穫量の減少をカバーする栽培法を開発。
- 従来の栽培の6割程度の栽培面積で同等以上の所得が得られることを明らかにした。

今後の展開

- 令和4年度から現地で試験栽培に取り組み、技術支援を行います。
- 簡単で美味しい食べ方をあわせて消費者へ提案し、山科小ナスの産地づくりを目指します。